

第2章 本市の障害のある人を取り巻く現状

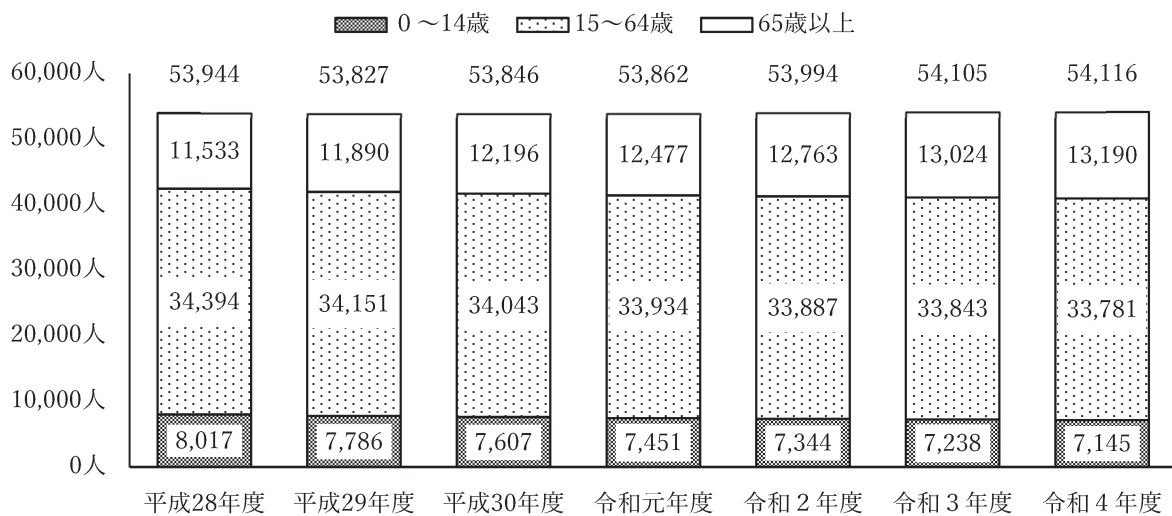
1. 人口の推移

本市の総人口は増加傾向にあり令和4年度で54,116人となっています。

年齢3区分別に見ると、0～14歳（年少人口）と15～64歳（生産年齢人口）は年々減少、65歳以上は年々増加と、少子高齢化が進んでいる状況にあります。

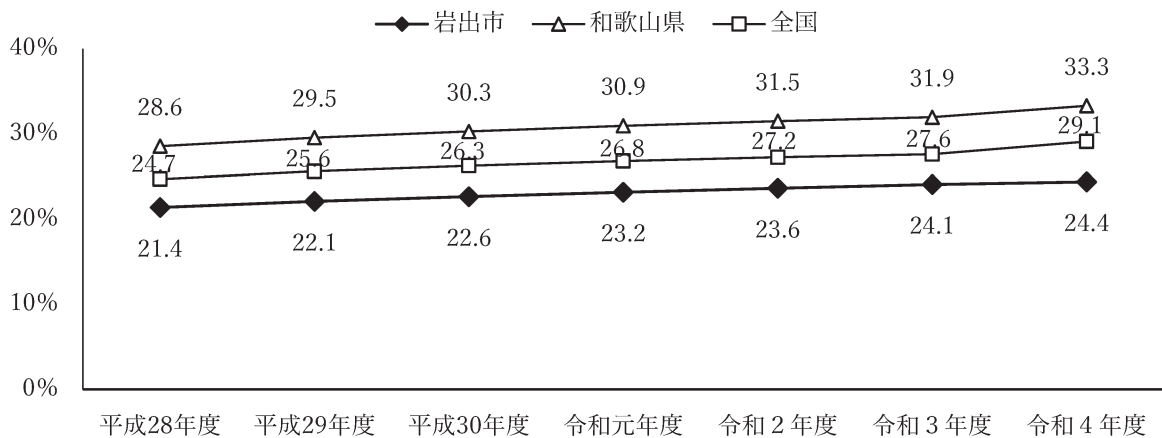
高齢化率は、全国・和歌山県に比べて低い状況です。

【年齢3区分別人口の推移推移】



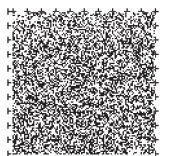
資料：住民基本台帳（各年度3月末現在）

【高齢化率の推移（全国・和歌山県との比較）】



資料：住民基本台帳（各年度3月末現在）

全国・和歌山県は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年度1月1日現在）

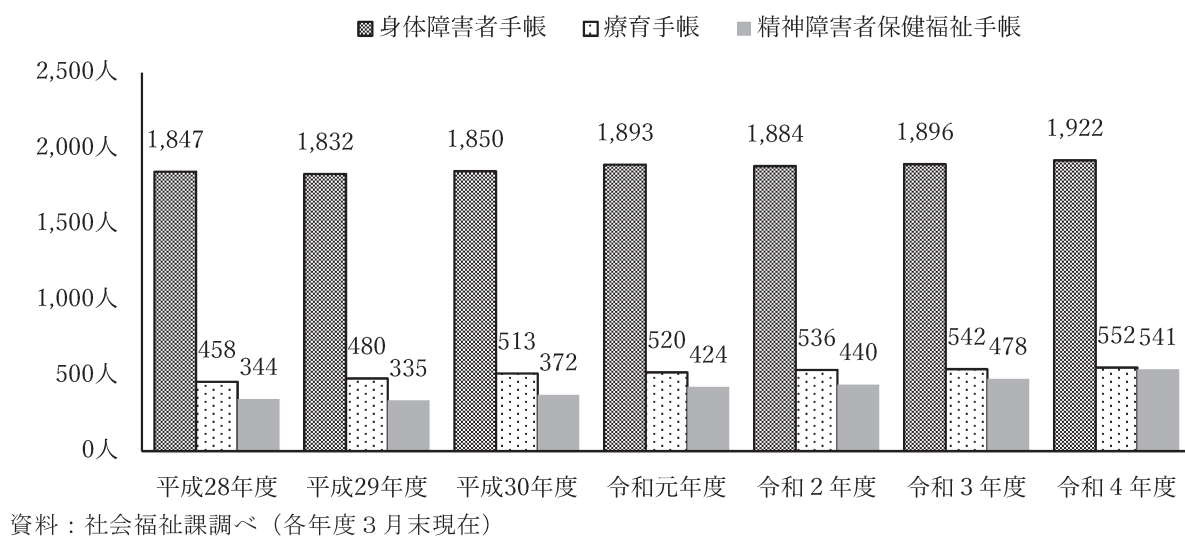


2. 障害者手帳所持者の推移

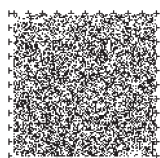
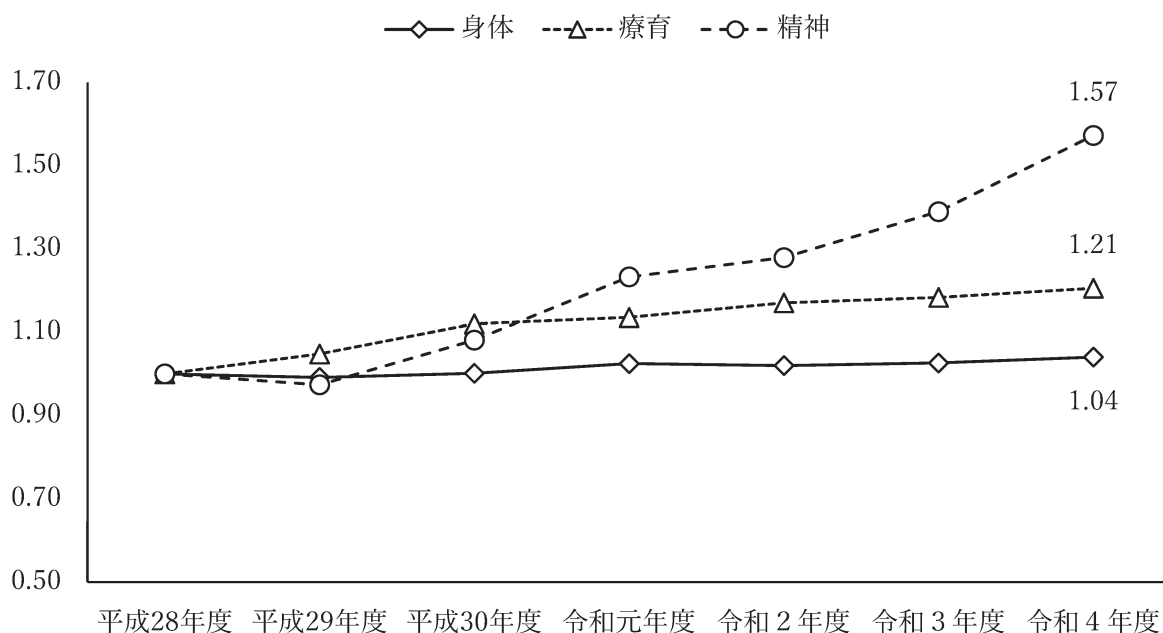
障害者手帳所持者数の推移を見ると、各手帳ともに所持者が増えている状況にあり、令和4年度で身体障害者手帳所持者が1,922人、療育手帳所持者が552人、精神障害者保健福祉手帳所持者が541人となっています。

平成28年度を基準とした増加率を見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者が最も多く増えており、平成28年度から令和4年度にかけて1.57倍増加しています。

【障害者手帳所持者の推移】



【平成28年度を基準（1.00）とした障害者手帳所持者の増加率】



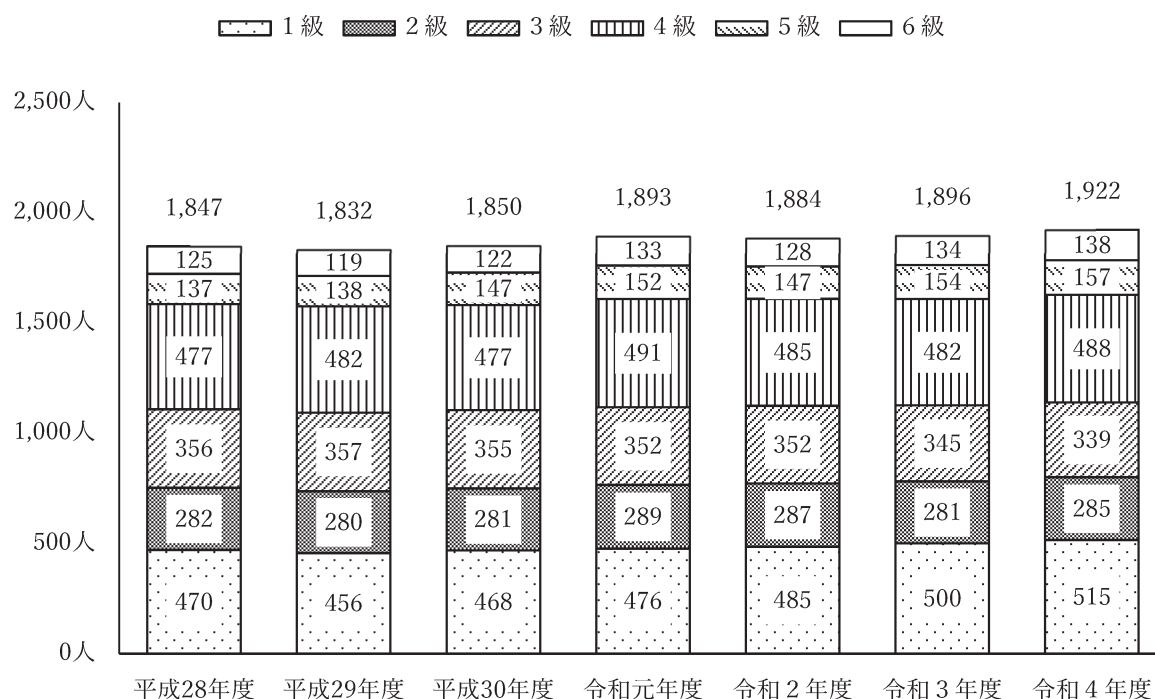
1) 身体障害者手帳所持者

身体障害者手帳所持者を等級別に見ると、令和4年度で「1級」が515人（構成比26.8%）、で最も多く、次いで「4級」が488人（構成比25.4%）、「3級」が339人（構成比17.6%）となっており、各年度ともに「1級」と「4級」の人が多くなっています。

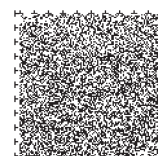
部位別に見ると、令和4年度で「肢体不自由」が1,026人（構成比53.4%）で最も多く、次いで「内部障害」が593人（構成比30.6%）、「聴覚障害」が174人（構成比9.1%）となっています。

令和4年度の身体障害者手帳所持者を年齢別に見ると、「65歳以上」が1,293人（構成比67.3%）、「18～64歳」が590人（構成比30.7%）、0～17歳が39人（構成比2.0%）となっており、全体の半数以上が65歳以上の高齢者となっています。

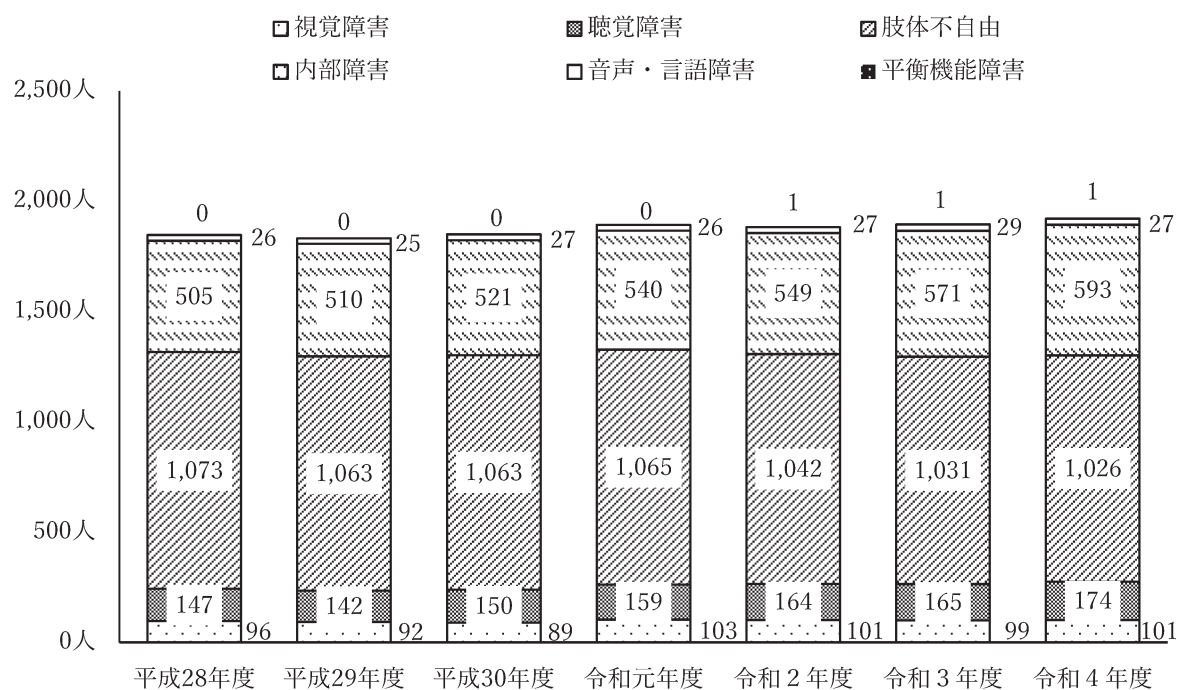
【等級別身体障害者手帳所持者の推移】



資料：社会福祉課調べ（各年度3月末現在）

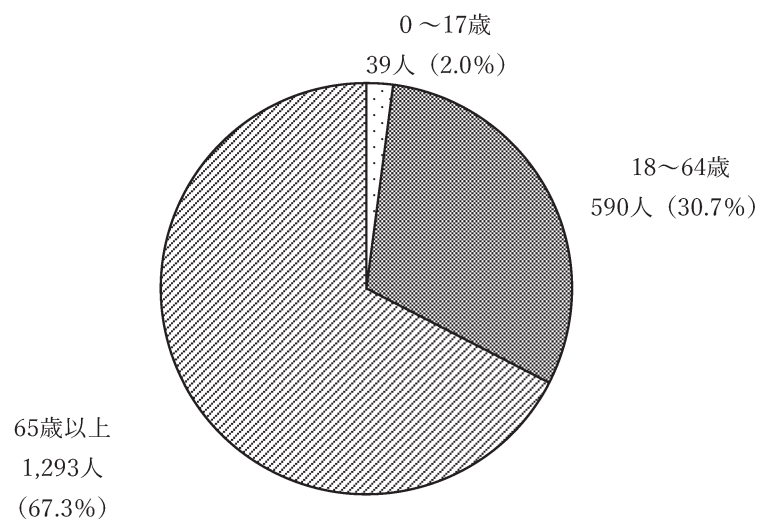


【部位別身体障害者手帳所持者の推移】

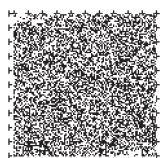


資料：社会福祉課調べ（各年度3月末現在）

【年齢別身体障害者手帳所持者（令和4年度）】



資料：社会福祉課調べ（令和4年度3月末現在）

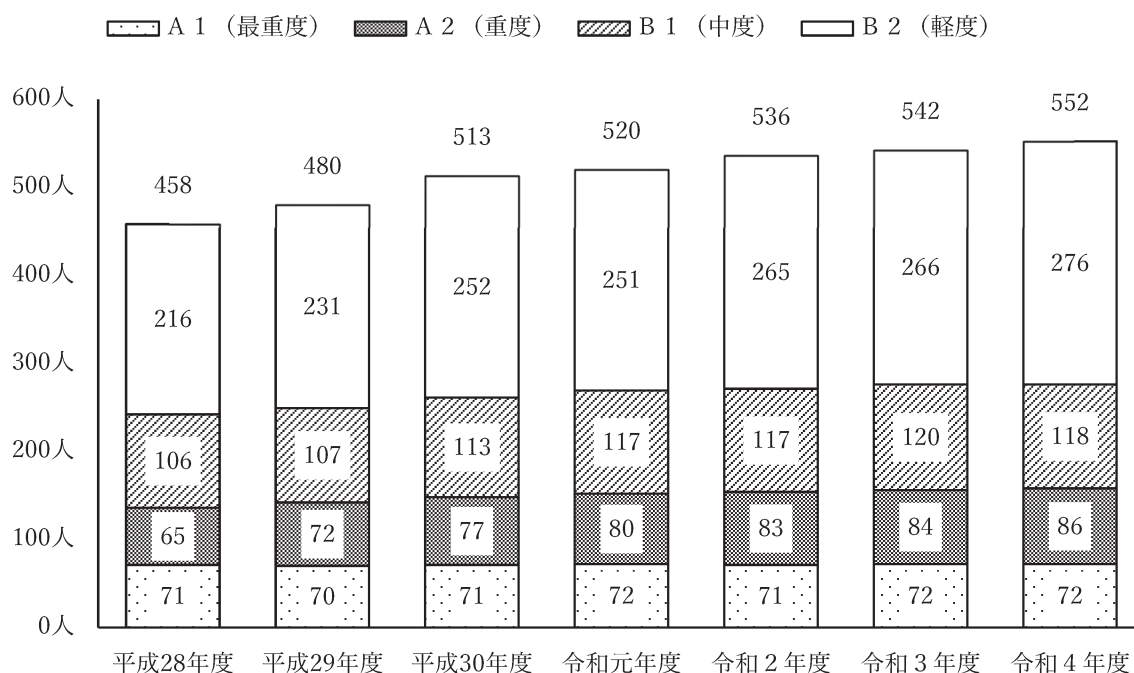


2) 療育手帳所持者

療育手帳所持者を判定別に見ると、各年度ともに「B 2（軽度）」が最も多く、令和4年度で276人（構成比50.0%）となっています。次いで「B 1（中度）」「A 2（重度）」と続いています。

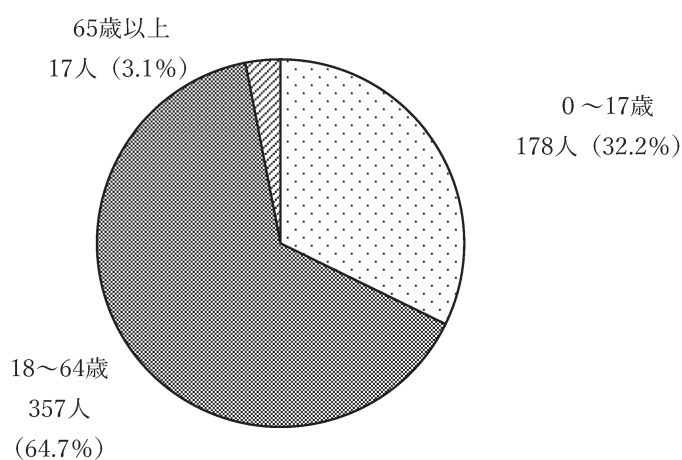
令和4年度の療育手帳所持者を年齢別に見ると、「18～64歳」が357人（構成比64.7%）で最も多く、次いで「0～17歳」が178人（構成比32.2%）、「65歳以上」が17人（構成比3.1%）となっています。

【判定別療育手帳所持者の推移】

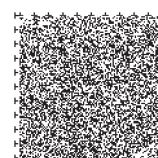


資料：社会福祉課調べ（各年度3月末現在）

【年齢別療育手帳所持者（令和4年度）】



資料：社会福祉課調べ（令和4年度3月末現在）

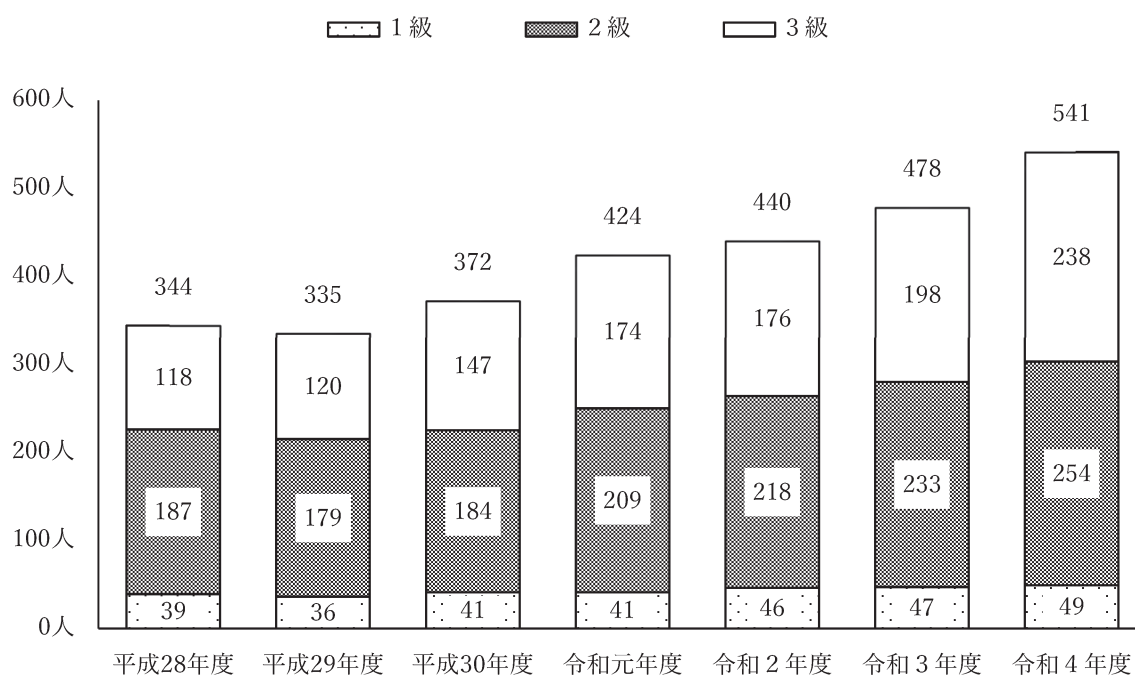


3) 精神障害者保健福祉手帳所持者

精神障害者保健福祉手帳所持者を等級別に見ると、各年度ともに「2級」が最も多く、令和4年度で261人（構成比46.6%）となっています。次いで「3級」「1級」と続いています。

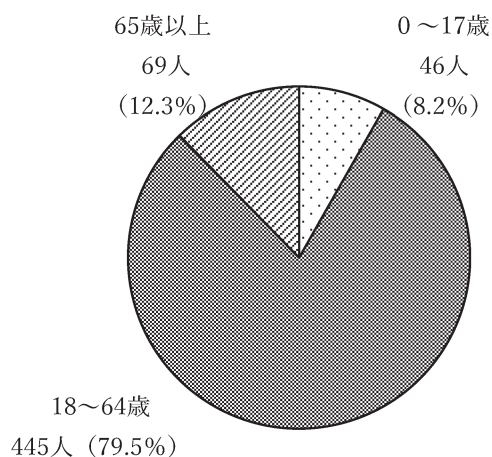
令和4年度の精神障害者保健福祉手帳所持者を年齢別に見ると、「18～64歳」が430人（構成比79.5%）で最も多く、次いで「65歳以上」が65人（構成比12.3%）、「0～17歳」が46人（構成比8.2%）となっています。

【等級別精神障害者保健福祉手帳所持者の推移】



資料：社会福祉課調べ（各年度3月末現在）

【年齢別精神障害者保健福祉手帳所持者（令和4年度）】



資料：社会福祉課調べ（令和4年度3月末現在）

